

船舶事故調査報告書

平成23年10月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行

事故種類	沈没
発生日時	平成22年8月29日（日） 12時30分ごろ
発生場所	静岡県熱海市初島南方沖 初島灯台から真方位157° 4,000m付近 （概位 北緯35° 00.3′ 東経139° 11.4′）
事故調査の経過	平成22年8月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数 船船番号、船船所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	<p>モーターボート <small>あたみすいさんツー</small> 熱海水産Ⅱ、12トン 231-6821 静岡、個人所有 11.68m (Lr) × 3.96m × 2.19m、FRP ディーゼル機関2基、470.72kW（合計）、不詳</p> <p>船長 男性 42歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年3月4日 免許証交付日 平成19年4月24日 （平成24年4月23日まで有効）</p>
死傷者等	なし
損傷	機関室に浸水ののち沈没、全損
事故の経過	<p>本船は、2機2軸を装備し、船長及び友人3人（以下「同乗者」という。）が乗り、熱海市所在のマリーナを出港し、初島南方沖を速力約20～25ノットで南南東進中、平成22年8月29日12時00分ごろ、右舷船尾船底付近に鈍い衝撃を感じた。</p> <p>船長は、機関の回転数を落として機関の作動状況を確認したのち、回転数を上げて航行を再開したが、右舷側の推進軸付近に再び鈍い衝撃を感じ、同時に右舷側の機関が停止したので、機関室に入ったところ浸水していることに気付いた。</p> <p>船長は、同乗者と共にバケツ等で排水作業を行いながら海上保安庁及び本船の整備会社に通報して帰港しようとしたが、船体が沈み始めたので同乗者と共に膨張式救命いかだで脱出した。</p> <p>本船は、12時30分ごろ左舷側から沈没した。</p> <p>船長は、同乗者と共に漂流していたところ、海上保安庁の巡視船が約1km先に見えたので自己発煙信号を2本点火し、同船に救助された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力2、視界 良好 海象：平穏</p>
その他の事項	船長は、出港前に機関室を点検した際、ビルジが溜まっていないことを

	<p>確認していた。</p> <p>事故発生場所付近の水深は、約600～800mであった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>本船は、初島南方沖を南南東進中、海中の浮遊物に接触して船体が損傷し、機関室に浸水したことから、沈没した可能性があると考えられるが、浸水に至る経過を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が初島南方沖を南南東進中、機関室に浸水したため、沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	